

記 事

◎第3回理事会(昭.27.8.5) 出席者: 稲浦会長, 立花, 福田両副会長, 富樫, 今岡, 本間, 佐島, 高畑, 樺島, 榎の各理事, 協議事項: 1) 稲浦会長建設次官に, 富樫理事道路局長にそれぞれ栄進せられたので当理事会は祝意を表する, 2) 福田副会長本月13日午後5時羽田発スカンヂナビヤ機で欧米に出発せらるることに決定したので当理事会は旅程の恙なきを祈念する, 3) 国際会議出席の学会代表壮行会を8月9日学会として開催を了承, 4) JSC選挙管理委員の北村市太郎君(当学会代表)は国鉄札幌工事事務所長に栄転について後任として理事今岡鶴吉君を推薦, 5) 9月講演会を10月に延期する, 6) 法面崩壊防止委員会幹事に東大農学部山口伊佐夫君を, 水理委員会委員に京大教授矢野勝正君, 運輸省港湾局森勝平君をそれぞれ委嘱すること, 7) 会費滞納者除名に関しては今一度照会督促状を出してから考慮すること, 8) 会員入退会承認。

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.27.8.18) 出席者: 本間, 佐島正副委員長, 村山(関西), 岡本, 森, 細井, 川口の各委員, 三宅幹事, 協議事項: 1) 会誌及び論文集進捗状況報告, 2) 原稿審査報告及び新原稿審査委員の決定, 3) 第37巻第10号登載論文を下記の通り決定。

畑中元弘: 土堰堤の振動に関する3次元の考察, 石原安雄: 道路側溝に関する水理学的研究, 久保田敬一: 浸透水流による築堤斜面の崩壊について, 川上暢夫: フィレンデル桁の一解法, 猪股俊司: プレストレストコンクリート桁の曲げ疲労についての実験, 岡本但夫: 河域計画と道路網, 浅村康: 新道路法について

4) 討議依頼先の決定, 5) 抄録について

2. 第9回製図規格委員会(昭.27.8.1) 出席者: 福田委員長, 樺島, 粕谷(代中村), 菊池, 佐島, 深谷, 丸安, 八十島の各委員及び田村, 榎本両幹事, 協議事項: 地図の部を研討, 各部共多少修正し, 河川と発電水力との協議等が残っているが福田委員長外地出張のため暫らく休会する, しかし各部共修正箇所を整備し, Example を付けるように研究して貰いたいと委員長から要望があつた。

◎その他

1. 学会代表壮行会(昭.27.8.9) 日本学術会議及び土木学会代表として英国及び米国に出張せられる下

記諸氏の壮行午餐会を日本工業クラブで開催し行を盛んにした。

米国技術百年祭及び第4回万国橋梁及び構造工学会議 福田武雄, 江藤智両氏(日本学術会議及び当学会代表) 米国技術百年祭 安芸皎一氏(土木学会代表) 橋梁及び構造工学会議 仁杉巖氏(土木学会代表)

出席者は安芸, 国沢, 丹羽, 丹治の各名誉員, 青山, 谷口の前会長, 稲浦会長, 立花副会長, 富樫, 坂本, 中島, 今岡, 本間, 佐島, 榎の各理事, 岩塚, 長浜, 山田の各常議員, 菊池, 千秋, 平井, 村上の各委員であつた。

2. 学会代表 福田, 江藤, 仁杉の3氏は8月13日スカンヂナビヤ機で無事羽田を出発した(別項参照)。

3. 応用力学連合講演会準備打合せ(昭.27.8.25) 出席者: 岡本, 本間, 後藤, 久保(土木学会), 田宮, 太田, 金沢, 片山(造船協会)の各委員, 協議事項: 1) プログラムの編成(別項参照), 2) 各室司会者の決定, 3) 各室分担は事務打合せの際はかすること, 4) 担当事項。

4. JSC 事務局から“International Association for Hydraulic Research”の常置委員会を明1953年8月30日の週間にMinnesota 大学で開催し次の項目について討議する。

a) density currents, b) air entrainment by flowing water, c) waves, beach erosion and hydromechanics of shore structures, d) basic relationship of sediment transportation by flowing water,

以上に関する論文を歓迎する”との資料の送附を受けた。なお当学会水理委員会ではこの会議に論文を提出するよう準備中である。

5. 日本道路協会においては第1回日本道路会議を本年11月6~8日に開催するから協力方申入があつた(別項参照)。

6. 東京都水道局佐藤志郎氏は米国のダム調査を終り8月15日無事帰朝した旨挨拶状に接した。

7. 当学会代表として米国技術百年祭に出席される予定であつた安芸皎一氏は国内事情のため出発が遅れて9月17日羽田発渡米されることになつたので百年祭に出席できなくなつたが, 建設省河川局治水課長伊藤剛, 農林省計画部技術課長清野保の両氏が百年祭期

間中に開催される International Executive Council of the International Commission on Irrigation and Drainage に出席するため 8 月 31 日羽田発空路渡米されたので、両氏を代表に追加する旨百年祭会長に通知した。

◎夏季講習会(昭.27.8.20~21 両日, 東大法学部第 25 号教室において) 今回は日本建設機械化協会と共催で“建設機械化”について講習を行うことにしたとこ

ろ聴講申込みが続々と値え 546 名となつた。20 日早朝からつめかけた聴講者で定刻には、あの広い 25 番教室がほとんど一杯になり、予定通り岡本理事開会を宣し稲浦会長所用のため多少遅れたのでプログラム通り、日本建設機械化協会会長谷口三郎氏の“建設機械化の過去と将来について”と題する興味深い特別講演の後、稲浦会長の挨拶に引続いて次の通り予定のプログラムに従つて講習が進められた。

第 1 日

機械化施工の理論及び計画	建設省土木研究所	建設技官	齋藤義治	
建設機械と土	京都大学教授	工博	村山朔郎	
掘削工法及び掘削機械	概論	建設省管理局建設機械課	建設技官	高木薫
	ショベル, タワー	日立製作所龜有工場	第二輸送機械設計課長	安河内春雄
	エキスカベータ	三菱日本重工業川崎製作所	製造部次長	清水四郎
	ブルドーザ			

第 2 日

運搬及び運搬機械	概論	国鉄施設局管理課	田中倫治
	建設工専用コンベヤ	三機工業株式会社	鶴見工場長
	ダンプトラック	三菱日本重工業川崎製作所	製造部次長兼設計課長
構造物の築造	コンクリート施工機械	財団法人 建設技術研究所	森茂
	ダム施工機械及び設備	間組技術局	土木課長
	道路施工機械	建設省道路局	国道課長
	トンネル施工機械	熊谷組	取締役
機械化施工の運営及び管理	関東地建	荒川上流工事事務所長	伊丹康夫

時が経つに従つて、水銀柱はぐんぐん昇り、終に本年最高のうだるような暑さとなつたが熱心な講演者と聴講者の呼吸がびたりと合つた講習会となつた。第 2 日は少しは風があつたがやはり気温は高いので聴講者は多少減るのではないかと懸念もあつたが、それも吹き飛んで遅刻する人もない盛況である。特に 7 月下旬帰朝された加納氏の米国における生々しい工事写真のスライドは非常に参考になつた。予定通り講習を無事終つたので第 2 日午後 5 時 20 分から終講式に移りまず谷口会長の挨拶に次いで、同氏から満場拍手の裡に聴講者代表建設省関東地方建設局の埴原文彌君に修了証を授与し、予期以上の成果を収めた。今回は例年

の記録を突破して 500 名を超えた盛況で年と共に盛んになることは斯界のために誠に慶賀に堪えない次第である。特に日本建設機械化協会の熱心な御協力に負う所多大である。ここに感謝の意を表すると共に同協会の今後の発展を希う次第である。

試みに聴講者を勤務先別に分類すれば次の通りである。

建設業者	161	製作業者	43	運輸省	19
国鉄	85	電力会社	16	道府県庁	90
東京都庁	15	市役所	25	学校	9
建設省	12	地方建設局	30	農林省	22
予備隊	5	公益事業委員会	13	無職	1

写真-1 会長挨拶



写真-2 谷口氏の特別講演



以上の数字から建設業者関係が非常に多かつたことは建設機械化施工が我国において実際に発展し得る動向を示唆するもので誠に喜ばしい次第である。

◎映画及び見学会(昭.27.8.22)夏季講習会の附属行事として建設機械化に関係深い映画を午前9時から次の順序で映写し11時20分終了した。なおこの映写に当っては鹿島建設KK企画課長生田久也氏外数人の方が多忙な時間を割いて尽力して頂いた。ここに同社の御好意に感謝の意を表する。

世界の果て (大倉商事KK提供)

毎日世界ニュース (国鉄技師長室幹旋)

ジャングルの征服 (鹿島建設KK提供)

電力は無限なり (")

仏国ゼニシアットダム工事実況

(東京日仏学院提供)

午後引続き建設機械製作工場及び工事現場等の見学をそれぞれ集合場所に集まり見学、関係工場及び工事の担当者の懇切丁寧な説明を得、また暑さの折柄冷たい飲物等の接待に見学者一同予期以上の成果を収めた。

終りに関係会社及び建設省関東地建当業者に深甚の謝意を表する次第である。各班の参加人員は次の通りであった。

A	日立製作所鶴有工場	106名
B	三菱日本重工業大井工場	54
C	建設省モータープール	33
D	戸塚国道改良工事	32
E	磐城生コンクリート工場及び地下鉄工事	83
F	日本セメント浅野コンクリート工場	27
G	石川島重工業機械工場	52

支部だより

1. 北海道支部 第1回講演会(昭.27.7.26. 北大において)北大教授板倉忠三氏が去る2月渡米し、アメリカにおける土木工学研究と建設工事について視察し、7月初旬帰朝したので同氏の視察報告と幻灯による実況説明があり100余名の聴講者を得、非常に盛況であった。講演終了後有志懇談会を開催、新旧欧米視察談に花が咲き和やかに散会した。なおこの講演会は北海道科学技術聯盟と共催であった。

2. 東北支部 建設機械映画会(昭.27.7.23)東北地方建設局会議室において、ショベル、ローダー、ダンプトラック等建設機械及びギャリソンダムの映画を映写し、観覧者約50名。

第1回見学会(昭.27.7.26~27)只見川電源地帯を

見学したが最初30名位の予想のもとに計画を樹てたが希望者90名を突破したため一切の輪旋の労に当られた東北電力KKの苦心に感謝する所である。まず26日若松駅前に集合、東北電力提供のバス3台内1台は福島県と乗用車2台(建設省、福島県)ジープ1台計6台に分乗し、片門発電所に向い、車中東北電力関係者の説明を得、日程の通り柳津、宮下等の発電工事場を経て沼沢沼発電所に到着したのは11時25分、同所見学の上中食少憩の後、北松部長から全線に亘る発電計画の詳細説明があり、参加者一同認識を深め次いで照井支部長から東北電力の絶大な援助に対し深謝の意を表し、14時出発、途中本名、田子倉只見上流の調査地を見て只見に到着、4旅館に分宿、やがて会社の厚意による懇親晩餐会が各宿舎で開かれ歓談尽きなかつた。翌27日8時出発、日本三大虚空蔵菩薩の一体、福満虚空蔵を安置されている柳津に至り、予定時刻に若松駅に到着解散、かくして有意義なエキスカッションを終えた。

土質工学講習会(昭.27.8.26~27)東北地建と共催で同所において会員100名を集め行われた。暑さにもめげず下記の日程により終始盛會裡に無事終了した。

第1日 8月26日(火)

1. 開会の辞
2. 挨拶 東北地方建設局長 伊藤 信
3. 講習題目及び講師

土質工学概論 東大教授 工博 最上 武雄
堤防土質 土木研究所 福岡 正巳
最近のアメリカにおける土質工学 鉄道技術研究所 都 淳一

第2日 8月27日(水)

1. 挨拶 土木学会東北支部長 照井隆三郎
2. 講習題目及び講師

基礎工 東北大助教授 河上 房義
路盤土質 土木研究所 工博 谷藤 正三
土質試験法 東北地方建設局 坂野 行雄

3. 中部支部 第4回幹事会(昭.27.7.1)出席者:高桑幹事長、鈴木(和)、井上、黒田、四野宮、渡辺、安河内、長坂、鈴木(代)、鈴木(代)、小村(代)、和久(代)、戸田(代)の各幹事、議題:1)6月国鉄第三浜名橋梁改良工事見学会報告、2)公開講演会について、3)地方編集委員に名工大荒井利一郎氏を推薦。

第5回幹事会(昭.27.8.5)出席者:高桑幹事長、奥田、荒井の両評議員、小栗、安河内(代)、小村、戸田(代)渡辺、四野宮(代)、鈴木(代)、鈴木(隆)、井上(代)鈴木(和)、黒田、中谷、和久(代)、長坂、増山の各幹事、議題:1)7月号予定行事を会場の都合で8月に持越すこと、2)8月行事は予定通り国鉄星越トンネル

工事見学会とする, 3) 幹事異動—黒田呂久三氏後任早川増一郎氏, 安河内麻雄氏後任村瀬清氏に決定, 4) 荒井評議員から会誌編集状況報告, 5) 10月支部大会準備, 6) 奥田評議員から土質工学講習会開催の提案があり可決実行に入ること。

公開講演会(昭.27.8.9. 長野市産業会館において) 通俗講演と映画の会を催したが暑気厳しく加えて職業野球があつたため聴衆は多数とはいえなかつたが皆熱心に聴講した(聴講者70名)。

長野鉄道管理局線路現況

長鉄工事課長 広川 伝二

長野県下の発電所の概要

中部電力長野支店長 浅野 兵二

近代橋梁

信州大学工学部長 結城 朝恭

映画(中部電力KK提供)

(イ) 開発を待つ佐久間ダム, (ロ) 発電機,

(ハ) セメント, (ニ) 水族館。

4. 西部支部 夏季講習会(昭.27.8.20~21 長崎県

雲仙において) 下記項目について講習会を開催したところ聴講者約100名を得て有意義に終了した。

開会の辞

飯田支部長

砂利道補修について

九州地建 三野 定

大距離迅速スタヂヤ測量について 九大 田中 吉郎

伊之浦橋について

長崎県 栗原 利栄

アーチダムの解法

熊本 重松 愿

シンプルトラスの二次応力の

二, 三の性質について

九大 鷹部屋福平

関門鉄道トンネル洩水について

国鉄 鮫島 健一

航路の新構築法について

運輸省 太田尾広治

北九州綜合開発について

福岡県 室井 勝利

地下採掘による地表沈下の

一考察

三池鉱業所 森田 定一

治水計画について

建設省 横田 周平

閉会の辞

幹事長

当講習会に当つて地元長崎県を始め関係各方面から絶大な御支援を得たので, ここに厚く御礼申上げる。

昭和 27 年 8 月分入退会報告 (8.1~8.31 現在)

1. 入会 44名(特2, 正9, 准20, 学13) 3. 転格 0名
2. 退会 8名(正5, 准2, 学1)

会 員 現 在 数 (8.1~8.31 現在)

名誉員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	合計	増加数
18	16	248	4650	5287	1151	11370	36

昭和 27 年 9 月 10 日 印刷 土木学会誌 定価 100 円

昭和 27 年 9 月 15 日 発行 第 37 卷 第 9 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川 一 美
印刷者 東京都港区赤坂溜池 5 番地 大沼 正 吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池 5 番地 株式会社 技報堂

東京中央局区内千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 社団法人 土 木 学 会 振替東京16828番